寒川文書館だより

Vol. 13

神川橋の開通式に集まった人々（昭和28年 当館蔵）

■第13号目次

資料紹介「神川橋の開通式」　・・・・・・・・・・・・2
入沢章家文書が寄託　・・・・・・・・・・・・・・・・3
町史編集委員を再委嘱／新刊のおしらせ　・・・・・6
文書館 最近のできごと　・・・・・・・・・・・・・・7

第13号
２０１３．３．３１
寒川文書館

＜資料紹介＞　神川橋の開通式

表紙にあげた写真は、昭和28年(1953)８月７日、神川橋の開通式に押しかけた人々の姿です。『寒川広報』（広報さむかわの前身）の取材のため撮影したものと思われます。

神川橋は、寒川町一之宮と相模川の対岸にある神田村（現平塚市）田村を結ぶ橋です。神田村の「神」と寒川町の「川」を組み合わせて、この名がつけられました。

ここに橋が架けられたのは、実はこの時が初めてではありません。江戸時代以来、この地には「田村の渡し」と呼ばれる渡船場があり、夏場には大山参詣の人々で賑わっていましたが、次第に通勤・通学・観光・軍事上の理由から恒久的な橋を望む声が高まり、昭和８年(1933)に「相模川中部架橋期成同盟会」が発足しました。この同盟会による積極的な運動の結果、昭和13年(1938)７月に木造の橋が架けられました。

しかしこの木橋は自動車が通行できず、暴風雨のたびごとに流されていたため、耐久性の高い橋が待ち望まれていました。昭和23年（1948）９月のアイオン台風で木橋が流されたのを機に、寒川町と神田村が神奈川県に働きかけた結果、全長301メートル、幅員5.5メートルの鉄筋コンクリート製の橋が架けられることとなりました。

昭和26年（1951）11月26日に起工式がとりおこなわれ、総工費7200万円、のべ約２万人の労力を費やし、ようやく昭和28年(1953)８月７日に開通式を迎えました。

午前11時半から始まった開通式では、まず寒川側で神式による儀式が行われ、ついで県土木部長の工事報告や、県会議員・代議士らの祝辞が述べられました。そのあと、内山岩太郎神奈川県知事の先導のもと、寒川町民から選ばれた二家族が田村側に向けて渡り初めを行いました。

この日は晴天に恵まれ、また月遅れの七夕休みだったこともあって、新しい橋を一目見ようと近在から１万５千人もの人々が詰めかけ、橋は人で埋め尽くされました。また一之宮の商店街では、道路に提灯アーチを飾り付け、打ち揚げ花火で景気をつけるなかで特価大売り出しを実施しています。さらに一之宮の天満宮境内では、午後５時から余興の芝居が催されるなど、官民あげて祝賀ムード一色に包まれたようです（『神奈川新聞』昭和28年８月７日・８日号）。

その後、昭和45年(1970)になって上流側に幅2.25メートルの歩道が増設されるなど利用の便がはかられましたが、老朽化が進んだため、平成４年(1992)、新しい橋に架け替えられました。

（椿田有希子）

待望の神川橋開通

寒川町と中郡神田村を結ぶ、相模川「神川橋」の開通式は七日午前十一時半から、内山知事を始め、官民多数参列の下に、とり行われた。幸い天気にも恵まれ、早朝から花火の音も賑やかに開通を祝は一之宮の竹内利八氏一家三夫婦によつて、めでたくその一歩を踏み出され、各新聞社のカメラマンもこの一瞬を撮りあさめんものと懸命だつた。十三年振りに開通した、この橋は近代的な鉄筋コンクリート橋でこれからは本町の爲にも重要な産業、経済的役割を果たすものと期待されている、その金額は三百一米である。

つて、寒川、神田の地元民を始め近傍の一般町民も挙つて同橋東際の式場に参じ、非常な盛況の裡に式典は無事終了した。

当日の渡り初め

（写真上は　五島町長の神前拝礼
下は　竹内一家三夫婦の渡り初め）

神川橋の開通を伝える「寒川広報」第28号（昭和28年９月１日発行）

入沢章家文書が寄託されました

入沢章家文書は、一之宮の入沢章さんが所蔵している史料群です。文書3,118点、典籍531点、絵はがき656点、計4,305点が伝存しています。

もともと入沢家は、近江国日野（滋賀県日野町）の商人で、17世紀後半頃に一之宮村に定住したといわれています。入沢家は、「日野屋」の屋号で一之宮村において薬種・荒物問屋を営みつつ、江戸にも進出し商売を営んでいました。また、一之宮村の名主や寄場組合（広域村連合）の役人をつとめるなど、地域政治においても重要な役割を果たしていました。

最も古い文書は延宝７年(1679)までさかのぼり、昭和期までのものがあります。その第一の特色は、近世の経営史料の豊富さにあります。入沢家は先述したとおり、一之宮村と江戸の両方に軸足をおいた経営を行っており、史料から関東農村と江戸とのかかわりを知ることができます。第二の特色としては、寄場組合関係の史料があげられます。一之宮村寄場組合は、一之宮村など28か村によって天保８年(1837)に結成されましたが、入沢家にはこの寄場組合の活動を知りうる様々な史料が残されています。

典籍については、承応３年(1654)から昭和10年(1935)までのものが残されています。文学書、漢学書、算術書など内容は多岐にわたっており、歴代当主の学問・文化への深い造詣を窺い知ることができます。

絵はがきは、明治35年(1902)から昭和17年(1942)までのコレクションです。

トラックでの搬出作業

寒川町では、昭和62年(1987)２月より入沢章家文書を調査・整理し、その成果を『寒川町史資料所在目録第４集』として平成元年(1989)に刊行するなど、これまでにも町史編さん事業で大いに活用させていただきました。

そしてこのたび、絵はがきコレクションを除いた文書・典籍計3,649点を、寒川文書館でお預かりすることとなりました。

平成24年５月、いったん文書を借用し、６月に燻蒸（資料に専用のガスを注入し、虫やカビを死滅させる作業）を行いました。そのうえで、同年11月末日付で正式に寄託の手続きが完了しました。

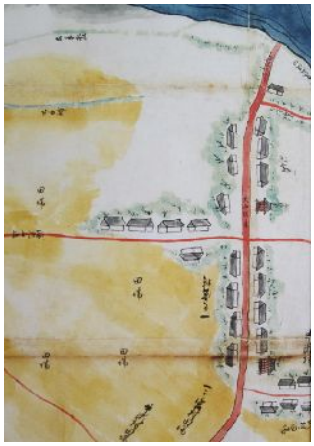
文書館収蔵庫内で燻蒸

入沢章家文書は、一之宮をはじめ、寒川地域の歴史を知るうえでたいへん貴重な史料群です。文書・典籍については、文書館で閲覧していただくことができます（ただし資料保護の観点上、写真版があるものは、写真版での閲覧となります）。

資料の検索は、前掲『寒川町史資料所在目録第４集』、もしくは文書館ホームページ上の入沢章家文書目録（http://www. lib-arc. samukawa. kanagawa. jp/opac/bunsyo/contents/shiryou/mokuroku/0205. xls）で行うことができます。ぜひご活用ください。

＜第13回企画展＞

江戸時代の一之宮村



一之宮村は、大山街道と中原道が交差する交通の要衝で、江戸時代以降、たいへん繁栄しました。

今回の企画展示では、平成24年11月末に当館に寄託された入沢章さん（一之宮）の古文書などをもとに、江戸時代の一之宮村のようすや、当時の人々の暮らしぶりについて、パネルでご紹介しました。

◀文政７年（1824）相模川附村々麁絵図面　（皆川邦直さん蔵）　※部分拡大
一之宮村の街並みが描かれています

Ⅰ　一之宮村の概要

一之宮村は江戸時代、町屋村とも呼ばれていました。

東海道藤沢宿から大山不動へ通じる街道沿いにあったため、早くから町場化が進みました。

Ⅱ　一之宮村の領主

一之宮村は、旗本の松平氏と森氏が分割して治めていました。

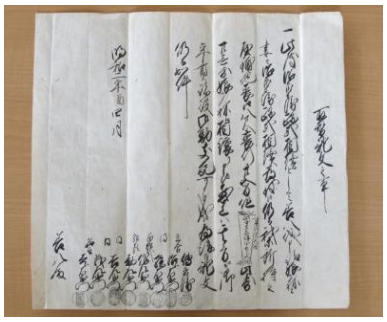
▲松平氏家紋

▲森氏家紋

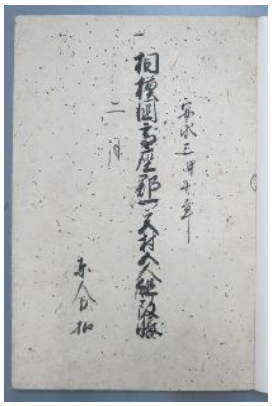
Ⅲ　村の生活

江戸時代の村は、領主支配の単位であると同時に、人々の生活の場でもありました。

ここでは、共同体としての一之宮村がどのように営まれていたのかを紹介しました。



明和２年（1765）跡式証文（当館蔵）▶
家の相続に村全体の意思が反映されることもありました。



安永３年（1774）一之宮村五人組改帳（平塚市博物館蔵）▶
村民が守るべき事柄などが記されています。

Ⅳ　大山道と中原道

一之宮村は田村通り大山道と中原道が交差する交通の要衝でした。

大山参りの集中する夏には、多くの参詣者で賑わいました。

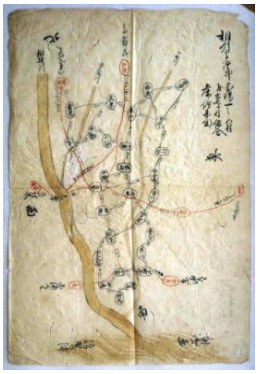
左：一之宮不動堂前、大山道の道標　▶

右：明治末頃　大山道、中瀬～一之宮付近
（茅ヶ崎市　重田はつみさん蔵）

Ⅴ　一之宮村寄場組合

江戸時代後期、一之宮村は、地域政治の要でもありました。

「寄場組合」という村連合において、一之宮村は中心的な役割を果たしています。



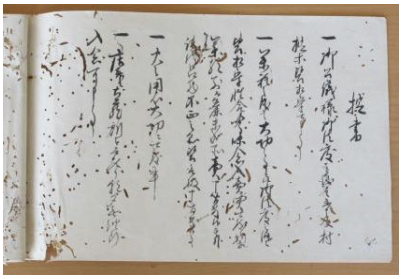
左：一之宮村外二十七ヶ村組合麁絵図面▶
（一之宮　入沢章さん蔵）

右：一之宮村寄場組合の印影
（岡田　三澤恵一さん蔵）

Ⅵ　入沢家の経営

入沢家は、「日野屋」の屋号で、一之宮村において農業経営や米穀・薬種などの商売を行ういっぽう、江戸へも進出し商業活動を展開していました。

また、歴代の当主は、学問や文化への深い造詣も有していました。



日野屋の掟書（家訓書）
（一之宮　入沢章さん蔵）

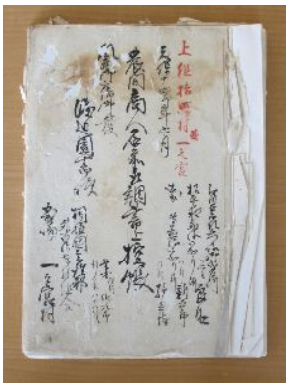
◀文政５年（1822）、入沢新太郎が寒川神社に奉納した算額の復元
（寒川神社蔵）

【展示期間】平成24年９月23日（日）～平成25年２月28日（木）　※既に終了しています

古文書講座で入沢家文書を活用

平成24年度の古文書講座では、入沢章家文書が寄託されたのを記念して、同家の文書を中心にテキストを選定しました。

天保11年（1840）「万歳帳」（日野屋掟書）、天保８年（1837）「寄場年中規矩相定帳」（寄場組合の議定書）、天保14年（1843）「農間商人名前取調書上控帳」（寄場組合の経済調査）などを読み、江戸時代の一之宮村のようすについての理解を深めました。



農間商人名前取調書上帳控▶

絵はがきを販売

入沢章家文書のなかには、昔の貴重な絵はがきが多数含まれています（※寄託対象外につき、文書館で閲覧することはできません。ご了承ください）。

寒川文書館ではそのうちのひとつ、目久尻川の改良工事を記念して昭和４年（1929）に神奈川県が発行した「目久尻川沿岸農業水利改良工事竣功記念絵葉書」の複製を作成しました。一部500円で販売しています。

町史編集委員を再委嘱

町史編集委員会は、歴史学等の専門家６名以内で構成され、町史刊行物などの編集方針を定め、執筆や編集などの実務も担います。委員の任期は３年で、平成23年度末で一旦任期切れとなりましたが、平成24年度当初予算では、厳しい財政事情の折柄、町史編さん事業自体が先送りとなり、委員の委嘱もできませんでした。しかし、資料調査の成果や文書館の活動をいち早く町民に伝え、後世に残すことの重要性を町長が再認識し、平成24年度９月補正予算で、事業の継続が決定しました。

これを受けて、12月20日、委員の委嘱式が行われました。これまで委員を務めてきた皆さんに再び委嘱し、さっそく24年度事業の刊行物について検討を開始しました。

委嘱式での町長あいさつ

担当分野	氏　名	備　考
宗　教	圭 室 文 雄	明治大学名誉教授
考　古	木 村　　勇	日本大学考古学会監事
古代･中世	鳥 養 直 樹	文教大学講師
近　世	大口 勇次郎	お茶の水女子大学名誉教授
近･現代	内 海　　孝	東京外国語大学教授

任期：平成24年12月20日～平成27年12月19日

新刊のご案内

調査報告書18

歴代の町長が議会で行った所信表明演説と施政方針演説のうち、昭和31年(1956)から昭和58年までの分を活字にしました。時代ごとの世相や政策課題が凝縮されていますので、寒川の戦後史を手早く知るのに最適な一冊です。

（平成24年10月、500円）

町史研究第25号

特集は「明治時代の寒川神社」。昨年三月に行った町史講座の記録を中心に、神社の造営に携わった宮大工についての考察や、寒川神社に関する新聞記事などを掲載しました。また岡田遺跡の特別講演会の記録も掲載しています。

（平成25年３月、500円）

文書館 最近のできごと

■地方史研究協議会大会報告　10月21日(日)

立正大学で開催された地方史研究協議会東京大会で、「地方史、その先へ－再構築への模索－」という共通論題のもと、「市町村アーカイブズの役割－地域のコンシェルジュをめざしてー」という題で発表を行いました。アーキビストのスキルは利用者に奉仕するために専門性をいかに発揮できるかで評価されるべきという内容です。他の発表も博物館学芸員と地域住民との関係を論ずる報告が多く、大いに参考になりました。

■中世史講座「都市鎌倉の梶原氏」　10月27日(土)～２月23日(土)　全４回

平成24年11月から25年２月にかけて、全４回で中世史講座を開催しました。寒川とも所縁の深い梶原氏の、主要な活躍の場であった鎌倉から、元八幡、鶴岡八幡宮、太刀洗水、大蔵幕府跡といった史跡を取り上げて紹介し、あわせて関連する『吾妻鏡』の記事を講読しました。事前に史跡を訪れて撮影した写真を画面に映して解説すると、受講したみなさんは興味深そうに見入っていました。

■ミニ展示「巳年のできごと」　１月８日(火)～２月28日(木)

過去の巳年にはどのようなできごとがあったのでしょうか。この展示では、文書館で保管している公文書等を活用し、寒川町国民学校の発足(昭和16年)、神川橋の開通(昭和28年)、相模線電化複線化促進期成会の設立(昭和40年)、さむかわ保育園の新築移転(昭和52年)、寒川東中学校開校(平成元年)、寒川町環境基本条例施行(平成13年)…といった具合に、12年ごとに現代史の一断面を紹介しました。

■町史講座＆史跡ウォーク「中原道を学ぶ・歩く」　３月９日(土)

文書館主催の町史講座と寒川町観光協会主催の史跡ウォークを共同開催しました。同日から始まった企画展「さむかわの道」の関連事業と位置づけ、まず商工会会議室において中原道の概要や寒川におけるルートなどについて説明しました。次いで中原道と大山道の旧道を中心に約７㎞のコースを歩き、沿道の史跡について解説しました。好天にも恵まれ、28名の参加者には歴史を満喫していただきました。

今後の事業予定

■開催中の展示

平成25年３月９日(土)から８月31日(土)まで、文書館展示コーナーにおいて、企画展「さむかわの道－古代東海道からさがみ縦貫道路までー」を開催中です。この４月にさがみ縦貫道路の茅ヶ崎JCT～寒川北IC間が開通するのを記念して、古代や中世の道、近世の大山道と中原道、近代の道路行政などを紹介しています。ぜひご来場ください。

寒川北ICの模型（国土交通省より借用）

■平成25年度の事業

平成25年度は次の事業を実施する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しいことは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

○古文書講座（全６回。５～10月の第４土曜）
○中世史講座（全４回。11～２月の原則第４土曜）
○企画展「関東大震災と寒川」（仮題）
○ミニ展示（随時）
○懐かし映像上映会　ほか

編集後記

「寒川文書館だより」第13号をお届けします。

昨年11月、入澤章さんご所蔵の資料を寄託していただくことができました。一之宮村の名主文書、寄場組合関係文書、江戸における経営資料、和算に関する本など、近世文書だけでも多岐にわたっており、近代についても村政に関するものや経営関係、絵はがきコレクションなど多彩な資料があります。文書館ではさっそく企画展、古文書講座、絵はがき集の発行などで活用させていただきましたが、今後も資料の翻刻などさまざまな形で皆さまの目に触れるよう、尽力してまいりたいと思います。この場を借りて、入澤様に改めて篤く御礼申し上げます。

利用案内

■開館時間

火曜～金曜日　　午前９時～午後７時
土・日・祝日　　午前９時～午後５時

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)
年末年始(12月29日～１月３日)
特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

ＪＲ相模線 寒川駅下車 徒歩10分
寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩１分
※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。

寒川文書館だより　第 13 号

平成25年３月 31 日
編集・発行／寒川文書館

〒 253-0106　神奈川県高座郡寒川町宮山 135-1
TEL 0467-75-3691　FAX 0467-75-3758
ホームページ　http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp
電子メール　bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp